

## スジゲンゴロウ *Hydaticus satoi* Wewalka

### 【選定理由】

愛知県では 1950 年代には採集されていたが、1960 年代以降どうしたこともまったく姿を消してしまった。国内においても近年の生息記録はなく、絶滅と判定されている。

### 【形態】

体長 12~14mm。体は長めの卵形で背面に光沢がある。背面はほぼ黒色で、頭部前半、前胸背面側、上翅両側の 2 縦条は黄褐色。体下面と肢は赤褐色。上翅の縦条は、外縁に沿っているがその内側にある 1 条は中央やや後方で癒合する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

名古屋市港区土古、名古屋市守山区、瀬戸市定光寺、安城市、蒲郡市などでの記録が残されており、かつては平野部を中心に広く分布していたことが推測される。

#### 【国内の分布】

本州（関東以西）、四国、九州、トカラ列島の中之島。

#### 【世界の分布】

台湾、中国、フィリピン、東南アジア。

### 【生息地の環境／生態的特性】

平野部から丘陵地の池や水田に生息していた。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

本県での生息情報は、すべて 1960 年以前のものである。本県を含め、本州からの近年の生息情報はまったくない。減少・絶滅の要因としては、平野部に偏って分布する種であったことから、宅地開発、水田の圃場整備等による生息地の消失、改変、農薬散布による影響を強く受けたことが考えられるが、詳細は不明の部分が多い。

### 【保全上の留意点】

現在同種とされる種が東南アジアに広く分布しているが、遺伝的な多様性については詳しい研究がなされていないので、安易な移入による人為的な回復を図るのは禁物である。現在ある自然度の高い池をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残すことになるばかりでなく、多くの水生生物にとって最も有効な保全手段である。そのためにも脅威となる侵略的外来種の根絶が望まれる。

### 【特記事項】

古い記録では、本種の学名は *Hydaticus vittatus* (Fabricius) となっているが、表記種名に変更された。現在ではオキナワスジゲンゴロウに *H. vittatus* の学名が当てられている。

### 【関連文献】

- Satô, M., 1961. *Hydaticus vittatus* (Fabricius) and its allied species (Coleoptera, Dytiscidae). Trans. Shikoku ent. Soc., 7(1/2): 54-64.
- 長谷川道明, 2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (12): 49-53.
- 長谷川道明, 2017. 豊橋市自然史博物館に新たに収集された東海地方産絶滅危惧甲虫の標本について. 豊橋市自然史博物館研究報告, (27): 31-35.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)



名古屋市守山区吉根, 1959 年, 森部一雄 採集,  
豊橋市自然史博物館蔵

県内分布図

